

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000788		
法人名	(株)アイケア北海道		
事業所名	グルメブホームアイケアおたる		
所在地	小樽市若松2丁目1番18号		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件がとても良く、近くにはドラッグストアやコンビニ、駅があり又、総合病院もあり入居者は安心して、生活が送れます。当ホームは、住宅地にあり小さい子供達が遊んでいる様子を、リビングの大きい窓から眺め、皆様笑顔で過ごされています。毎月1回は外国人の先生が来られ、英会話を言い歌やリズムに合わせ、楽しんでます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0172000788-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0172000788-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成31年2月8日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境や介護機能性：若松の住宅街にあって、町内との交流も定着し、季節や催事を共に楽しむ環境にある。居室の一部は車いす用トイレ付等、介護機能に配慮された設計が施されている。
- 2) 職員の態度や姿勢：職員は家庭的な雰囲気づくりに真摯に取り組む、明るく丁寧な個別介護対応や相談事項にも専念し、利用者・家族の好感を得ている。
- 3) 利用者・家族の満足度：家族のアンケートの回答はホームの家庭的雰囲気の良さ、職員の真摯な家族対応、食事や個々の深淺の状況への配慮などを喜んでいる。
- 4) 運営推進会議の運営状況：会議は定例に介され、運営の状況をつまびらかに説明して、出席者の意見を運営に反映している。
- 5) 地域・関係機関等との連携：包括支援センター、町内会長等の協力を得ているが、課題に応じた関係者(防災・地域福祉等)との協議や協力が望まれる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目配り、気配り、心配りの理念に沿った支援を入居者様に提供できるように、努力しています。	法人・事業所共に「利用者本位の目配り、気配り、心配り」をモットーに、職員全員が理念と行動を共にして、介護実践の実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の会合等に参加し資源回収やお祭りの神輿に参加、見学をしています。	町内会との交流を深めつつ、若松町固有な季節や小樽の催事に応じた楽しみを共にするとともに、日常の地域の一員としての務めの協力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、意見をお聞きしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し。入居者様の状況等を報告しています。	会議は定例に開催されて、包括支援センターや町内会長等の参加を得ている。議題は事前に明確にして、ホームの日常活動の実際を詳細に報告し、参会者の意見を運営に反映するよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会に加盟、参加し理解に努めています。	市の窓口とは定例報告を通じて情報交換の機会とし、またグループホーム協議会への参加を通して行政方針やホーム運営の執行に利するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会や勉強会を行い、良いケアができるように取り組んでいます。	ホームの身体拘束委員会の協議結果を運営推進会議に報告するとともに、職員相互が理解に努めて、利用者本位の介護に活かせるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加したいと、思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の面談で説明させて頂き、疑問についてはいつでも、対応させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、ご家族様からの意見や要望を聞くことができるように、努めています。	家族が来訪した際には、担当者を中心に利用者の日常や心身に状態を伝えて、家族の意向の吸収に努めている。また、変化に応じた連絡や介護記録を送るなど理解に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できるだけ意見等を聞き、運営に反映できるように努めています。	毎月の職員会議やカンファレンス会議を通して、相互に学び合うとともに、利用者の担当制をとる職員の知識・技術・経験上の意見を聴き、必要に応じて個別的な話し合いを行い、資質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の参加に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会にて、相互研修に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	会話や声掛け等にて、入居者様の様子を見守り、希望を聞き入れる様に努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や要望に関しては、十分に話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前に利用されていたサービス等は、相談に上その方のニーズに沿っていきたく思います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は、家族と認識しています、お互い協力しながら、関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子は、介護日誌に記載しご家族へお送り、報告や連絡を密に取り、共に築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	段々馴染の場所が薄れてきている方もおられます、その一方ご家族と馴染の美容室に行ったり外食されたり、さまざまです馴染みの場所を聞き支援に努めています。	家族の訪問頻度にも違いがあるが、来訪の機会を大切に支援している。近隣の入所者もあり、馴染みの美容院利用や家族との外食、地域での催事の楽しみ等の工夫に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	英会話やからおけを通じ、お互いを理解しあえるように機会を持つように、努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等があった時は、対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の訴えや意思は、申し送りやカンファレンスで把握している、困難な時は入居者様の言動や様子で把握できるように努めています。	入所以来の記録や家族との話し合い等から、また本人の既往の生活感やホームの生活状態に応じて望みや意向を忖度するなど、その把握に努め、介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様によくお話を聞き、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りで職員間で情報を共有し、できるだけ継続しおてできるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで見直ししながら、ご本人やご家族が望む事を基本に、介護計画書を作成しています。	担当制によるカンファレンス会議の成果を基本に各職位に応じた介護計画作成の協議を重ね、また家族の意見を反映して計画の見直しに努めている。計画書は家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や申し送りで、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	残存機能の維持をする為、できる限り本人や家族の要望に対応しています。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容や地域の消防署との連携をとり、年2回の訓練を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する、医療機関の往診を月2回受けています、又週2回の訪問看護師と連携をとり、薬剤師からは服薬に関する指導・助言を受けています。	利用者個別のかかりつけ医の受診を大切に、訪問看護センターと協力して支援している。また協力医療機関とは月2回の往診、訪看とは週2回、薬剤師等との連携の下に受診支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が入る際、日誌や受信記録等を参照し、報告や処置を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師と情報を共有し、医療機関と連絡を密にし、退院後の生活が継続できるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に説明し、医療機関との連携を図り取り組んでいます。	重度化や終末期の対応指針の共有については、入所契約時に明文化した指針を共有し、医療機関、他専門職、訪問看護センター等の協議を経て対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化の対応は指導されています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	推進会議を通じ、地域や町内会の方々との連携はとっています。	定例の防災訓練の実施は運営推進会議の協議事項として理解と協力を求めて実施している。なお食品等備蓄は市の協力もあり備えている。	近年の想定外災害の多発は、防災関係機関による地域防災活動情報を地域組織・機関相互で共有を図り、備蓄も照明・暖房等可能な留意を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への言葉使いに十分注意し、人権を尊重した接し方をしています。	利用者個々の生活や心身の状況等に応じて、言葉遣いはじめ人格やプライバシーを損ねることの無いように、職員相互が認識して対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り寄り添い、お話をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、できるだけ希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問美容を利用、季節に合わせた服装心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事日は、できる限り入居者様の要望を聞き、提供しています。	利用者個々の嗜好や心身の状況に応じた食事を提供できるよう、意向や要望に応えるよう努めている。管理栄養士のメニューに基づき美味しく、楽しめるよう工夫を重ねている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの取れた、メニューを考え提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の口腔ケアを行い週2回は、義歯消毒を実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄チェックを記入、パターンを把握し交換や声掛けで支援しています。	職員は利用者の排泄パターンや心身の状況を確認して、自立支援を基に、個々の排泄支援に努めている。必要に応じて排泄素材等について家族とも協議している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリ体操を実施、水分摂取をし予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴やシャワー、清拭で個々にあった支援をしています。	入浴は週2回、個々の心身の状況や意向に応じて、入浴やシャワー、清拭等による個別的支援に努め、楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人に合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より、薬に関する注意事項や説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、生活環境等を整え、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や行事等で外出の機会を作り、できる限り要望に添えるように支援します。	外出は個々の意向や心身の状況、天候等に合わせ、無理なく、季節に応じた身近な外出や行事等に合わせた工夫に努めている。	身近に、無理なく、状況に合わせた外出支援の努力を、家族に分かり易く伝える工夫を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族の要望に応じ、お金が使えるように支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望はなく、手紙に関しては月に1回は、介護日誌をお送りしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に整理整頓を心掛け、温度や湿度に気を配り居心地の良い環境を作っています。	共用空間の居間は南に面して、日当たりがよく、開放的に設えられ、介護機能の利用も便利な状態にある。また温・湿度や採光管理等にも留意して、居心地の良い雰囲気を醸している。季節に応じた飾り付けや行事等の写真等、家族にも分かりやすい配慮に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が会話をされたり、テレビを見たり、思い思いに過ごせる場所になるよう空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族が居心地が良い環境を作っています。	居室は清潔に整えられ、個々の馴染みの生活用品や飾りつけなど、家族とともに支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かし、個々にあった自立生活が送れるよう工夫します。		